



中高生とともに差別と闘う

『青い心』

吉成タダシ (うずしおランチ代表)



一雄さん・早智子さんとの出会い
石川一雄さんが三月十一日に亡くなられました。狭山事件の石川一雄さんです。被差別部落出身であることから見込み捜査が行われ、確たる確証がないままに一番で死刑判決。二審で無期懲役となり、第三次再審請求をしていた最中でした。

私が狭山事件を知ったのは三十三年前。周囲の保護者や活動家と比べると、ずいぶん後からの出発になります。司法に関する知識が全くなかった私には、聞くことすべてが分からないことだらけで、本当にゼロからの学びでした。そんな私でも、何度も何度も聞いていくうちに、少しずつ入ってくるというか、分かって始めるのです。そのおかしさが、この判決のためさ。

石川さんが一九九四年に仮出獄したあと、ある集会で初めてご本人と出会うわけですが、不思議なものです。すぐ後に結婚した早智子さんは、私にいろんなことを教えてくれた保護者や活動家たちの仲間内でした。そして、その仲間内で毎年夏に開催していた「二人を囲むBBQ」に呼ばれて行くようになります。私に家族ができてからは、親子でも行くようになりました。子どもたちもずいぶん可愛がつてくれました。

その後、転勤した先は、早智子さんの故郷の中学校。後輩となる中学生にも知ってもらいたいと思いい、集会や映画上映会にも連れて

いきました。中学校での文化祭では、「サヤマの風」という人権劇を行い、一雄さんと早智子さんに観に来ていただいたことも。そのときは生徒たちが二人をステージにお招きし、話もしていただきました。私の中ではいつの間にか、欠くことのできない三十年となっていました。

青い心

人はどういうところに集まるのか、と考えることがあります。根底には、「人権には人が集まらないう」と感じる人がよくあるから

食べ物があるところ

お金があるところ

面白そうところ

他にも人が集まりそうところはあるでしょう。でも、私にお金はありませんし、美味しいものも作れません。人を集めるほど面白くありません。

五月。仲間たちと狭山に向かいました。毎年恒例となっている、狭山現地調査です。昨年は一雄さんともお会いできましたが、今年はいません。かろうじて早智子さんが応対してくれるのみです。

そんななか、現地事務所の祭壇に飾られた綺麗なパネルに目が行き、思わず眩きました。「誰がつくったんだろう」とすると現地の方が、「葬儀屋さんが作ってくれたんです。しかも一番若い人が一晩で調べて」。えーっ！と思わずその方を見つめました。私はてつき

り、熱烈な支援者のどなたかが作ったと思ひ込んでいたからです。「忍耐強く」

一つの信念を貫き、

みんなの心を動かしてきた。

この雄大な空の彼方で

ゆっくり休んでください。

「一」と「雄」は、特に大きく描かれていました。

知ることは大切です。でも単に知るだけでは、知ったことを悪用しかねません。その知ったことの奥に、どんな思いで人が生きてきたのか、そこにある「情」を同時に深く感じ取ることが大切なのだと思います。それが欠けてしまうと、単に差別を教えるだけ、差別をばらまくだけの学習になりかねません。「そんな学習ならやめてくれ！」これまで多くの被差別部落出身の方から聞かされてきました。その通りだと思っています。

知ることは大切です。それは否定しませんが、同等に、いやそれ以上に、「情」を大切にすることです。それくらいのパランスで、ちようど良いのだと思います。

「情」は「心が青い」と書きます。それは、「まだまだ未熟な心」とも読み取れるでしょう。でも言い換えれば、「若い心」、「志を持つ心」、「希望に溢れた心」とも読めるのではないのでしょうか。たとえ少数でも、志を持ち、希望に溢れたつながりが、私はいいなと思えます。そんな集まりが、私は好きです。この葬儀屋さんも、そんな集まりのような気がします。

最後の中学生集會にて

私たちがこれまで大切に続けてきた人権を語り合う中学生交流集會を、この夏で終えることにします。一九九五年から準備を始め、九六年にスタートしたこの集會も、今年でちょうど三十年。まさに、石川さんと共に歩んだ三十年でした。

先日、集會の準備のために集まった中高生たちに狭山事件や石川さんの話をし、本大会当日、黙とうを行ったうえで、追悼動画をみんなで観合い、思いを共有できなかったと提案し、快く了承を得ました。ちようど今ごろ、学校は夏休みに入ったころぐらいでしょうか。本大会は七月二十日ですから、最後の集會がどのようなになったのか、この小冊子が皆さんに読まれる頃には判明していることでしょう。その事後談については、また機会があれば紹介できればと思います。

個人的には、その翌週に人権こども塾夏季一泊研修として、香川県の豊島に行く計画を進めていました。そのつながりで、先月は人権こども塾で賀川豊彦記念館を訪れました。石川一雄さんは亡くなりましたが、狭山事件が終わったわけではありませんし、世の中にある様々な問題が解決したわけでもありません。むしろ問題だらけです。そんな問題に決然と目を向けられる子どもたちと、これから共に歩み続けていきたいと思えます。